

第 10 回 焼津市行財政改革推進審議会

1 開催日時 平成 22 年 3 月 16 日（火） 9：00～11：00

2 開催場所 焼津市役所 本庁舎 6 階 602 号室

3 次 第

1. 開会

2. 議事

(1) 焼津市立総合病院について

(2) 来年度の審議事項について

3. 閉会

4 出席者

(委員)

五十右信幸 委員
大石人士 委員（副会長）
小松みゆき 委員
坂本光司 委員（会長）
杉山秀夫 委員
鈴木恒夫 委員
服部敏之 委員
廣瀬武久 委員
村松佳苗 委員
望月誠 委員
山本幸子 委員
良知トヨ 委員

(事務局)

山田 副市長
渡仲 企画財政部長
石野 企画調整課長
西形 人事課長
小長谷 企画調整課行政改革推進担当主幹
山下 企画調整課市民協働推進担当係長
田中 企画調整課企画調整担当主査

(関係部局)

中野 病院事務部企画経理課長
仁藤 病院事務部医事課長
増田 病院事務部地域医療連携室長
河合 病院事務部企画経理課企画担当係長
寺尾 病院事務部企画経理課経理担当係長
奥川 議会事務局長
法月 議会事務局庶務課長

5 議事録 別紙のとおり

<p>1. 開会 (石野企画調整課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまから、第 10 回審議会を開催する。 ・審議会条例により議長は会長が務めることとなっているので、坂本会長よろしく願いいたします。
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議事に入る前に、前回の審議会で議員の定数が 21 人という結論になったことについて話題になったが、本日、議会事務局の方にお越しいただいているので、説明を伺いたいと思う。
<p>(奥川議会事務局長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議会改革検討委員会を平成 21 年度に設置し、2 月 9 日に議員定数について議論し、21 人という結論になった。 ・理由としては、議員定数等調査特別委員会（平成 18 年設置）で現在の条例定数である 21 人と決定した時の根拠（3 常任委員会×討議できる最低人数の 7 人＝21 人）を踏まえ、21 人～22 人が妥当だということだが、藤枝市が既に定数 22 人と決定しており、藤枝市と比較すると焼津市は規模が小さいので、21 人で決定した。
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我々は市長、議長に定数 19 人で提言したが、我々の提言がどう影響があったのかが委員の皆さんの関心事だと思うので、その辺りを説明願いたい。
<p>(奥川議会事務局長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この審議会からの提言書は、文書で議員の皆さんにお渡ししたが、19 人というのは今の焼津市の状況では受け入れられないという意見だった。
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の類似の市町を調べると、16 人でも機能しているところもある。
<p>(奥川議会事務局長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・補足すると、大井川と合併して、人口が増えた地域もある。議員として市民の意見を吸い上げていくには、19 人では少ないという意見もあった。
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的にみて、経過措置的に 21 人という話ではないのか。
<p>(奥川議会事務局長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そういう議論は特にでていない。
<p>(望月委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局長でなく、当事者と話をしないと進まないと思うが、沼津市では人口 1 万人に対し 1 議員という直接請求をしようとしているし、名古屋市でも半減しようとする動きがある。焼津市は 14 万人しかいないので、19 人でも多いと思う。その中で、21 人の根拠として「3 常任委員会×討議できる最低人数の 7 人」というのが、なぜ 7 人なのかが見えてこない。常任委員会も 2 つでいいのではないか。将来に向けた議会改革を考えているのか。藤枝市が 22 人で焼津市のほうが若干面積が小さいから 21 人が妥当というのは、少し説得力がないと思う。やはり、当事者と話をしたい。

(村松委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・先程会長がおっしゃったように、何年か先にこうしたいというものがあって21人なら理解できるが、隣の市に合わせて21人では、もう一歩進んでくださいという感じになる。
(五十右委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに皆さんと同様、物足りない部分はあるが、我々の提言は布石にはなったと思う。ここで議論したのは大きな意味があったと思う。
(大石副会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・逆の面の話になるが、回答書のp2に「合併時の協議結果の上限である「25人」が妥当であるとの意見がありました」と記載されているが、まだ25人のほうがいいと言っている議員がいるのなら、その意識が問題だと思う。意識を変えていってもらわないとならない。
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・議会をたまたま傍聴したが、結構いろんなところから意見が出てきて、いろんな感覚が出てきている気がする。これを礎にして、質的な面がクリアできていけばいいのではないかと。私は、21人という結論は賛成である。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・本日、事務局長にお越しいただき、分かりにくかったことが少し明らかになり、段階的な努力の形跡は見られると思う。25人になっていたかも知れないので、そういう意味では見識のあった方がいたということ。 ・我々審議会としては、今後も継続的に努力をしてほしいし、本日の意見を再度まとめて市長、議長に申し上げるという形をとろうと思う。 ・では、議会事務局の方、お忙しいところありがとうございました。
2. 議事 (1) 焼津市立総合病院について	<ul style="list-style-type: none"> ・では、前回、前々回と続いている議事だが、焼津市立総合病院の改革に関するのだが、人間的な面、数字的な面、患者さんの面で非常に厳しい状況であることは今までの資料や議論でおわかりだと思う。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった諸問題をどう対処してきたのか、特に平成19年度以降の取組について今回資料があるので、これについてご説明いただき、議論していきたい。
(中野企画経理課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・資料2-11について説明
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・病院あり方検討会は別途開かれているが、我々審議会としても、市のかんりの予算を病院に繰り出しており、それでも赤字がたまっている以上、放置はできない。この問題に関しても中間答申、提言書を出すことになる。個人的には一度、昼でも夜でもいいので、このメンバーで徹底的に話し合わないと、と思っている。 ・最大の問題はコストが増えることではなく、収益が減る、患者が減ることだが、これは不況で減ったわけではない（不況でも病人は出る）。看護師もそうだが、医師が自分で開業されたり、別の病院に行ったり、大学の医局に戻る等の結果である。根本的な問題は、いかに優秀な医師に長く居てもらうか（あ

	<p>るいは来てもらうか)ではないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千葉県鴨川市にある亀田総合病院は、東京から2時間30分かかる不便なところだが、3万6千人の人口に対し、医師が400人を超えている。産婦人科医師は20人以上いる。給料は決して高くないが、医師にとって魅力的な病院ということである。 ・病院に関する情報収集をする中で、榛原総合病院を経営する徳洲会も決して万端というわけではないし、藤枝市立総合病院、島田市民病院も厳しい状況である。患者を増やす、単価を上げると前回言われていたが、それは少し違うのではないかと思う。 ・何かご意見があったらお願いしたい。
(鈴木委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民から、焼津市立総合病院に行ったら横柄で嫌な態度だったという声を何回か聞いている。ホテル並みに接客しろとは言わないが、病院の基本的部分である、患者さんに対する窓口の対応、こういったものが今後の取組に抜けているのではないか。
(中野企画経理課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の待遇に関しては、ずっと前から取り組んでおり、待遇委員会も設立しているが、十分時間を掛けて、今後とも注意していきたいと思う。
(仁藤医事課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・患者さんのご不満の要因の一つに、内科系の「紹介制」がある。紹介状がない方は断らなくてはならないので、病院に対しご不満を持ちやすい傾向にある。接遇面も確かにあるが、先に不満がたってしまうこともある。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・先程、亀田総合病院のことを述べたが、他にも似たような病院を知っている。鈴木委員がおっしゃったようなことは重要なポイントになるかと思う。一方では、医事課長がおっしゃったこともあるかと思う。
(山本委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・病院には民間病院もあり、民間では「商売」という感覚が強い。公立病院だからといって、そうした意識を出してはいけないということはないと思う。そういった意識を持っていけば、内部的に改善されるかも知れない。 ・公営企業法の全部適用をしてみたらどうか。財政状態の表をみると、このままでは民営化が破綻しかない。財政の健全化を一番最初に取り組んでほしいと思う。公立病院という役割を果たすために赤字が仕方ない部分と、そうでない部分とあると思うが、そうでない部分に関しては経営努力が必要だし、もう少し細かく診療科目ごとに分析したらどうか。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が利益意識を持って仕事をしていただきたいということ、民間的な手法も取り入れたほうがいいのではということ、財政の健全化を行うこと、診療科ごとの収支バランスを分析するべきということを手本委員から提案していただいた。

<p>(中野企画経理課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 財政の健全化については、おっしゃるとおりであり、医療機器等の購入費も以前は3億の投資ができたが、現在は半分程度しかできない状況である。 ・ 診療科目ごとで考えると、産婦人科、小児科は他病院に比べ医師が充実しており、その分患者も多い。ただ、公立病院であるので、ハイリスク分娩等、通常分娩でない患者も集まるので、医師の負担になってしまうことも事実である。 ・ 深いところの原価計算が不足しているので、力を入れていきたい。
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 患者が減っているというのはあくまで現象であり、収入が減る原因は、患者に対応できる医師が減っているからだと思うが、なぜこうも多くの医師が焼津市立総合病院から辞めてしまうのか。
<p>(中野企画経理課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つには、平成16年から始まった新しい臨床研修制度だと思う。今までは医局制度で、大学から医師を順序送ってもらっていたが、臨床研修制度になってからは研修したい病院を自分で選べるようになり、大学で働いていた研修医が離れていってしまったため、大学の医師が不足したため、地方にいる医師を呼び戻すようになったため、地方の医師が不足している。 ・ また、訴訟のリスクの高い診療科（産婦人科等）が敬遠されるようになったり、救急医療等、勤務医がハードなため、開業医を選ぶ医師が増えたり、診療科ごと地域の偏在化が顕著になってきている。
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎市町村や、東京・第一国土軸から遠く離れた箇所ならわかるが、第一国土軸の中核にあり人口10万人をはるかに超える病院で、なぜこういう現象が起きるのか。大学の医局が引きあげたとか、研修医制度が変わったとかという問題ではなくて、内輪の問題とかがあるのではないか。 ・ 私は医師ではないが専門職をやっていて、お金で動いたりはしない。職場の人間関係等があるのなら、根っこを変えていかないとならない。
<p>(仁藤医事課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の医師不足の原因は、横浜市大の循環器医師の撤退から端を発している。循環器が撤退すると、循環器医師のいない病院には代謝系の医師は置けないということになり、悪循環になってしまっている。これだけで8人程度の内科系医師が撤退してしまっている。
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ焼津市立総合病院だけターゲットにされるのか。
<p>(仁藤医事課長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当時の横浜市長の方針で、横浜市が困っているので、呼びもどすべきだということで、医局を引き上げてしまった。実際は、引きあげた横浜市大の医師は横浜市大に皆戻ったわけではなく、横浜市内の病院に分布されたようである。
<p>(望月委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院のすぐ近くにある循環器の開業医は、何という医師か。

(仁藤医事課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎医師である。
(望月委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・焼津市立総合病院にいた循環器の医師が、その目の前で開業をしているのは異常である。
(仁藤医事課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市大の医師撤退の前に、長崎医師は退職し、開業している。現在、循環器の患者は長崎クリニックにある程度流れていると思う。
(服部委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の問題点について、「他の病院もそうだから仕方ない」という感じになっていないか。 ・循環器医師の不足という話があったが、なぜ不足しているかという、大学病院の医師引き上げということだったが、他の大学からは呼んでくることはできないのか。循環器の医師がいないというのが一番の問題であるならば、どうすれば循環器を復活できるのか、どうすれば医師を呼べるのかということを実先に考えて努力すべきだが、その辺りの対応はしているのか。 ・本当の問題点は何なのか、収支が大きくマイナスになっている最大の原因は何か、それをどう改善していくのかということを考えないとならない。
(仁藤医事課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の市長も含め、様々な大学病院に出向いて循環器医師の確保に努めているが、なかなか出せないという状況である。 ・現在、2名確保しているが、これは人材斡旋にお願いして確保できたものであり、医局を離れた医師である。来年度も1名確保し、合計3名になる。
(服部委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に医師が不足しており、特に循環器は高度医療なので余計そうだと思うが、一つ考えなければいけないのは、医師がいなくなった原因であり、医師が来てくれない原因である。これは、焼津市立総合病院が「魅力がない」からではないか。お金だけでない、何かが根本にあって引き上げてしまったのではないか。魅力がない原因はわかっているのか。
(中野企画経理課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・医師にとって魅力のある病院とは、金銭面ではなく、自分のやりたい症例が豊富にあるとか、自分が高められるところということのようである。 ・循環器医師が撤退したのは、新しい臨床研修制度によるもので、当院の循環器医師は全員横浜市立大学からの派遣だった。いなくなったところで循環器医師を募集しても、循環器医師が誰もいないので敬遠されてしまうという悪循環に陥ってしまっていた。 ・今までは医局から安定的に医師がきていたが、その繋がりがなくなってしまったので、厳しい状況にはある。
(望月委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、生命という部分では病院の存在は大変大きいので、こういう状況にな

	<p>ると市民の関心は高いし、我々審議会としても取り上げないとならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の資料を見ると、10年間の推移の中で、単純に売上が30%ダウンしており、この大きな要素は医師の減だが、これについては市長を含め最大限努力をしているという状況の中、なぜ事務員が50%増えているのかがわからない。ましてや10年前と比べ3倍近い電算システム委託料を払っているのに、事務員が減らないのはおかしい。 ・市の職員がトップで病院に行くのはそもそも間違いである。こういう時代になった以上、様々なノウハウを持った人間がトップでないとならないし、そもそも市はコスト意識をもたなくていい組織である。事務局長は民間人から雇った方がいいのではないか。
(良知委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・以前ダイヤモンド誌に掲載されていたが、国立大学でもっている病院を独立行政法人化したときにいろんな問題があったが、一番の問題は情報の共有化ができていないということだった。情報の共有化をいかにするかということコンサルタントが入って、お互いの立場を理解した上で情報の共有化を行い、国立大学病院としての担うべきことを担って改革を行ったようである。 ・改革改善のプランがあるようだが、これが果たしてどこまで浸透しているのか。風通しをよくする努力をしてほしい。組織がいかに生きているかが重要である。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある病院というのは、自分の技術が高められる環境にあるか、尊敬するに値する医師がいるかと、もう一つは人間関係である。病院長や科長との軋轢で疲れ果ててやめてしまうケースが多い。
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、地方公営企業法の一部適用であるが、これを全部適用すれば、人事権、経営に関するイニシアチブが病院側に任せられることになる。こうなれば、仮に循環器が弱くても産婦人科が充実しているなら、それを利用して産婦人科を全面に出した病院経営に変えて、全国に出ることも可能になるのではないか。 ・民間手法の導入に向けて最低限でも地方公営企業法の全部適用、できたら独立行政法人まで持っていくべきだと思う。その中で責任者を外部から招聘するとか、経営分析の手法を民間的な手法で行う、情報の共有化を行う等行うべきである。榛原総合病院のようではなく、焼津市立総合病院を残したい、その中で民間の手法は取り入れるべき。亀田総合病院にも視察にいつてはどうか。
(中野企画経理課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・今の状態でも産婦人科を充実した施設にしていくことは可能である。人事の問題等は全部適用になれば廣瀬委員のおっしゃるとおり、管理者は市長から移譲される。
(鈴木委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・私が先程言った、病院の受付で苦情がある、という指摘に対し、課長から理解してほしいとおっしゃっていたが、それは一部分の特殊なケースだと思う。

	<p>外来に患者がこないと経営が成り立たないわけで、基本を忘れていてのではないか。服部委員もおっしゃっていたが、企業では5つある部門の中で2つ採算が合わない部門があればそこから撤退し、残りの3つを全力投球し、撤退した2部門の余剰人員で何かをしようとする。そういう発想が全然ない。もう少し真剣に考えた方がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今日提示していただいた資料だが、本当に真剣にやっているのか。一部の職員が理解しているだけで、トイレの清掃職員がこういうことがあることを承知しているのか。病院の中に掲示してあるのか。文書で流しているのか。 ・ 課長さん達の話の聞いていると他力本願で、やる気がないように見える。もう少し真剣に取り組んでほしい。
(杉山委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立病院としてどうしても残さなくてはならない心臓部分は何かを明らかにし、市で責任を持つことにし、その他の部分は開業したい医師に部屋を貸したらどうか。こういう状況の中、医師を連れてくるのは大変だが、開業したい医師は多いので、そういう経営を行えば市で受け持つ部分もだいぶ減るし、人的にも少なくなるし、市民も助かるのではないか。
(小松委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ リスクが少なくて収益が上がる方法を考えてみたが、最近「メディカルツアー」という、海外の方が日本の医療を受けたいという要望が増えていて、がんセンターがそれをやりたいという意向があるが、この地域は特に要望がない。静岡空港と合わせて、ソウル便が午前に着くので午後から半日ドクターチェック等やって次の日から観光に、というのもおもしろいかもしれない。
(五十右委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一月くらい前、自治会連合会から回覧板が回ってきて、病院経営が大変なのでできるだけかかりつけ医にかかりましょう、という内容だったが、一見矛盾しているように見えてしまう（患者が増えないと収益があがらないことと）。医師の負担になってしまうので、かかりつけ医にかかって、紹介状をもって市立病院に、と理解している人は多くないと思う。本質を考えようというところまでいっていないのでは。 ・ 魅力のある病院ということが一つの決め手なのでは、と思う。魅力があれば遠くから患者もくるし、そういう病院になっていかないと、と思う。 ・ 給与面、薬の仕入れ値は民間の方が安く、収入は民間の方が多という新聞記事があったが、薬の仕入れ値、給与面は周りと比較したことがあるのか。
(村松委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 藤枝、島田、榛原と全体で考えてみて、焼津は産婦人科、島田は循環器、という感じで、それぞれの病院が得意とする分野を伸ばして、それぞれの病院で連携をしてほしい。
(増田地域医療連携室長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 杉山委員から病院施設の開放についてご提案があったが、昨年12月から病院解放病床を5床開設した。そこを開業医の医師で自分の患者を入院させたい時

	<p>に利用していただけるようになっている。志太医師会、焼津市医師会の医師合わせて 99 名が登録していただいている。実績としては 3 例くらいしかないが、大いに利用していただきたいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介患者の件だが、病院としては地域の基幹病院なので、重篤な患者は当院で受け持つが、症状の軽い方は開業医でフォローしていただきたいということが前提である。内科系は特に紹介状がないと受診できないようにしているので、不満を持たれる患者も多いと思うが、数少ない医師の負担を少しでも減らさないとならない（今いる医師も去っては困るので）。
<p>(廣瀬委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病診連携で、紹介率が上がると診療報酬がその分上がるのではないか。
<p>(増田地域医療連携室長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 つハードルがあり、紹介率・逆紹介率、開放病床、集中治療室（ICU）の整備等の条件を満たすと「地域医療支援病院」として認定されるが、それが認定されると診療報酬が上がることになる。今、ICUの整備だけが基準を満たせていない（ICU専用の部屋がない）。
<p>(廣瀬委員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今おっしゃられたようなことが経営として重要だと思う。
<p>(大石副会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公立病院は非常に難しい問題が多いが、共通して言えることは、民間の手法を取り入れていかないと乗り切っていけない、ということではないか。立ち直りつつある病院は民間の手法を取り入れているところがほとんどである。 ・ 今日の資料の「22 年度から 23 年度における経営改善の取組」は、コンサル等を入れないで職員だけでつくったようだが、コンサル等を入れるとその分コストはかかるが、磐田市立病院は 5 年前からコンサルを入れて改善をやってきている。ここに記載されている取組は、まだやってなかったのか、というものも多い。循環器の問題もそうだが、「スピード」が求められていると思う。 ・ 単に名前だけでなく、大きな権限を持って行動できる人が必要だし、そういう組織にしていかなければならない。全職員が同じ方向に向かって改善に取り組むことが大事である。 ・ 病院のあり方検討会では、医者としての専門性、地域の病院としてのあり方という意見は出てくるが、もっと切りこんで、ここは経営資源が限られているからこうした方がいい等の意見が、このメンバーでは出にくいのではないか。 ・ 病院の全職員が気持ちよく働いていれば、患者に対し横柄な態度もでないと思う。
<p>(坂本会長)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回に、皆さんから出た意見を中間答申（意見書）ということでまとめさせていただきたいと思う。 ・ サービス面や職員の意識を高めることはすぐにできることなので、即やっていただきたい。 ・ 病院の改革プランが平成 21 年度～23 年度となっているが、市民のためにも

	<p>10年くらいの再生プラン（マスタープラン）をつくるべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あり方検討会のメンバーは病院の医師と役所関係であるので、経営的な感覚をもった方を入れた方がいいと思う。また、病院長がメンバーにいるが、病院長の目の前で人間関係のこと等、思っていることを言うことは絶対にできない（言いにくい）と思う。人間関係が一番の根幹である。この体制であるべき意見が本当に出るのか。 ・焼津市立総合病院で全てをやっていくのは不可能であるので、あれもこれもではなく、専門的な分野を強化し、病院同士のネットワーク（連携）を強化して経営していくべきである。 ・亀田総合病院のように、医師にとって魅力のある病院づくりを行っていくべきである。お金で医師は動かない。 ・緊急事態なので、例えば病院基金として、1年に1世帯、1万円程度寄付をしてもらったらどうか。1万円×5万世帯=5億円になる。市民も負担せざるを得ないかもしれない。市民から寄付をしてもらえば、医師も一段とやる気に燃えるのではないか。 ・今言った点をまとめて、次回意見書として案を提示するので、それを審議していただき、加筆・修正をお願いしたい。
(廣瀬委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公営企業法の全部適用の検討についても入れていただきたい。
(大石副会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・病院のあり方検討会だけではないが、行政が行っている検討会は、経営感覚をもった人を入れていくことが大事だと思う。
(2) 来年度の審議事項について (坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・では、病院の皆さん、ありがとうございました。 ・次に、議事「(2) 来年度の審議事項について」だが、以前、検討していきたい事項について皆さんから出た意見を参考にすると、「一般職員の定数、給与等について」「地域資源開発センターについて」等について議論していきたいと思う。
(杉山委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・大綱の実施計画についてはどうなったのか。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・この審議会であれだけ意見を言ったので、原課との調整に入っていて、少し時間がかかっているようである。
(石野企画調整課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・各原課にて、原点に振り返って再検討しているところである。近いうちにとりまとめて、審議会にて提示したい。
(坂本会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の開催日は、事務局と調整し、追って連絡することとする。以上で終了する。